

学校評価（自己評価）公表シート

社会福祉法人アタラシイカタチ

幼保連携型認定こども園 西大寺北こども園

1. 本園の教育・保育目標

教育・保育理念

一人一人のよさや可能性を伸ばし、地域とともに育ち合うこども園
 ～ 一人一人の居場所を大切に ～

教育・保育目標

「豊かに学び、自ら考え、行動する子どもを育てる」

- ◎ よく考え探求し、ことばで伝えようとする子
- ◎ 規律を守り、自然や人との関わりを大切にする子
- ◎ リズムある生活と、体力づくりや食習慣形成に心がける子
- ◎ 身近な自然や人・文化に親しみ、大切にしようとする子
- ◎ 人や物に進んで関わり、「あこがれ」がもてる子

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

評価項目を設定し、それらに沿って自己評価を実施し、職員が主体性を持って自園の教育内容・保育内容をチェックし、重点項目について点検と改善に取り組む。

3. 評価項目の達成と取組み状況

評価項目	取組み状況
幼保連携型認定こども園の教育・保育理念や方針に沿って課程を編成している。	法人、園の理念や方針を職員で共有し、子ども達の実態と園の教育・保育理念に基づき全体的な計画を作成した。
指導計画は、教育・保育要領、教育・保育課程、子どもの実態などをもとに考えて作成されている。	こども園教育・保育要領及び奈良市の教育・保育に関する指針に基づき、職員間で共通理解を図ると共に、子どもの実態に応じた指導計画の作成・見直しを行っている。また、IB教育の視点を取り入れた計画の充実にも取り組んでいる。
子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。	日々の観察や記録に基づいて子ども理解を進め、職員間で話し合いをもち、子どもの実態に合わせた日々の保育の工夫、保護者対応等に努めている。
毎月、各クラスの成果と課題を報告し、確認している。	各クラスで月案や週日案の作成と振り返りを行っている。また、各保育教諭が研究主題に合わせて保育事例を持ち寄り、園全体で共有し、園全体の把握に努めている。
子どもの良さを認めて評価しようとしている。	一人一人の子どもに寄り添い、良さや成長を的確に捉え認めながら、保育の実践に活かすようにした。

遊びを通して工夫したり、協力したりする姿が見られる。	朝の自由な遊び等、異年齢児で関わり合って遊び、工夫したり協力したりする遊びの広がりが見られた。子ども達も保育教諭も工事区域で行動が制限される中でも、工夫して自分たちの活動を楽しんだ。また、保育教諭は子ども達の主体的な活動を見守りながら、必要に応じた関りを意識し、多様な体験ができる環境づくりの工夫に努めている。
規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行う。	子ども達の実態を把握しつつ、基本的な生活習慣が身に付くよう保育を行い、保護者にも啓発している。
教育・保育の質の向上のために、園内研修を充実させる。	年の研究主題を設定し、各保育教諭が事例を作成し持ち寄って研修を行った。また、園内研修を行い他園からの参加者と振り返りを行ったりアドバイスをもらったりした。また、一人一人を大切にす保育の自己点検や保育の見直しを行った。その他にも安全に対する研修等も行いながら、質の向上に努めた。
園だよりや各種研修会を通して、子ども園の情報を発信していく。	日々の子どもの様子をコドモンで配信したり、園だよりや保健だより、またドキュメンテーション等の発行を行い、園の取組みについて情報発信したりしている。また、地域の会合等で園の様子を伝えている。
保護者のニーズの把握のために、要望や苦情に適切に対応をはかる。	年間2回の個人懇談、クラス懇談や保護者アンケートを実施し、保護者の思いや意見を聞き、園の考えを伝えつつ改善に努めている。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

外部評価については、地域の方々に園を見ていただき、保育の実情を説明することで評価を得ることができた。また、自己評価の取り組みを通して職員一人一人が自分の保育や園運営について多面的に振り返る機会となり、保育の見直しや改善につながる意識の向上が見られた。また、日々の実践を振り返りながら、改善を重ねることで子ども達の主体的な活動を支える保育の充実が図られている。今後も継続して評価と改善を通して、教育・保育の質の向上に取り組んでいく。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
安全教育と安全管理	地震、その他の自然災害への対応や不審者対応など、危機管理マニュアルの徹底を通して職員の意識の向上を図る。更に事業継続計画（BCP）の作成にあたり、研修も含め災害を想定しながらできることに取り組みたい。
自己点検・自己評価	各職員が自己の振り返りや自己目標に向けて課題を知り、日々の見直しをしながら自己研鑽に取り組めるような取り組みを考えたい。
指導計画の編成	教育・保育要領を基盤とし、関連する指針等をふまえながら、子どもの実態に即した指導計計画の立案や見直しを進める。 また、IB教育プログラムの実践に基づいて計画の明確化を図り、職員一人一人が主体的に取り組めるようにする。